

## REGISTERED UTILITY MODEL GAZETTES (U)

(11) Registration No.: 3026081  
 (24) Registration Date: April 10, 1996

---

(51) International Classification: A01G 27/04  
 A01G 9/02  
 A01G 27/00

---

(21) Application No.:	7-14361	(73) Applicant :	Miyamoto Daisuke
(22) Application Date:	December 20, 1995	(72) Inventor:	Miyamoto Yoshie Miyamoto Aiko Miyamoto Daisuke

---

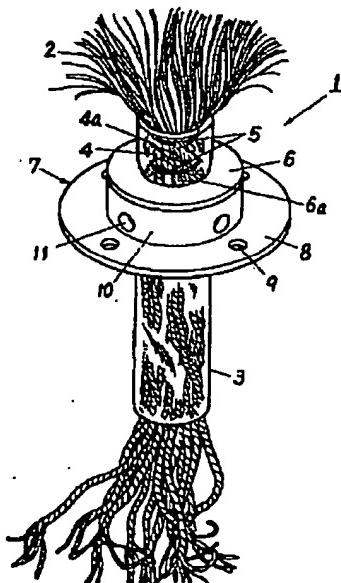
(54) Title of the Device: Water Cup for a Potted Plant and Flowerpot for Appreciation  
 Using the Same

---

**(57) Abstract**

**Problem to be Solved:** This device aims to provide the water cup for a potted plant that the permutation of soil atmosphere is easy for it, it can fully perform breathing of a root, and root corrosion produces it, feed water and supply of a liquefied fertilizer are ensured to a root. Moreover, the thing for which a feed water object does not slip down from tubing and it can hold certainly, and it excels in endurance and the transplant of a bowl offers the easy water cup for a potted plant.

**Solution:** According to this device of water cup for potted plant (1), a. the feed water object (2) inserted in the tubular section, and b. the pot bottom floorplate (7) equipped with the cylindrical wall for an air negotiation which has one through two or more air negotiation



sections to the perimeter set up by the center section of bottom plate and said bottom plate, and c. the tubular section (3) inserted within said cylindrical wall for an air negotiation of said floorplate and formed with the bottom of floorplate, and d. the fixed matter (4) which fixes said feed water object to said tubular section, and e the end-dam section (6) contacted by opening of the upper bed of the bridging of said cylindrical wall for an air negotiation which was fixed to the aforementioned tubular section free [sliding] and was formed with the larger path than the bore of said cylindrical wall for an air negotiation of said pot bottom floorplate, formed an essential part of the water cup for potted plant.

(19)日本国特許庁 (JP)

(12)登録実用新案公報 (U)

(11)実用新案登録番号

第3026081号

(45)発行日 平成8年(1996)7月2日

(24)登録日 平成8年(1996)4月10日

(51)Int.Cl*	統計記号	序内整理番号	P I	技術表示箇所
A 01 G 27/04				
9/02	1 0 1	B 9818-2B		
	1 0 2	9318-2B		
		9318-2B	A 01 C 27/ 00	6 0 2 C
		9818-2B		5 0 5 F
			評価書の請求 未請求 請求項の数 6 FD (全 15 頁)	著者有

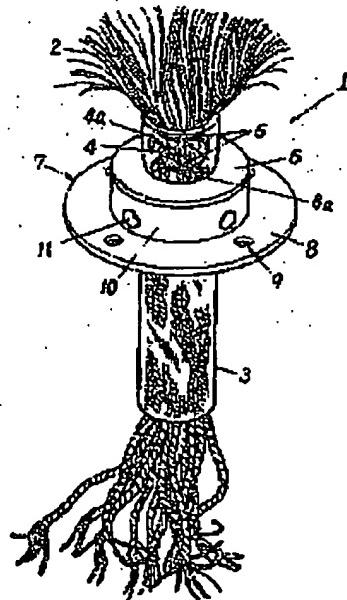
(21)出願番号	平成7-13361	(73)実用新案権者	000161530
(22)出願日	平成7年(1995)12月20日	宮本 太介	山口県下関市長府金屋町3-5
		(72)考案者	宮本 好江 山口県下関市長府金屋町3-5
		(72)考案者	宮本 愛子 山口県下関市長府金屋町3-5
		(72)考案者	宮本 太介 山口県下関市長府金屋町3-5
		(74)代理人	弁理士 横本 一郎

## (54)【考案の名称】 体植用給水器及びそれを用いた鉢栽用植木鉢

## (57)【要約】

【課題】 本考案は、土壤空気の置換が容易で根の呼吸が十分にでき根腐れが生ずるのを防止できるとともに給水及び液肥の供給が根に直実に行われ、また給水体が管状物からずれ落ちることなく直実に保持でき耐久性に優れ、かつ、鉢の植え替えが容易な鉢植用給水器を提供することを目的とする。

【解決手段】 本考案の鉢植用給水器1は、a. 管状部に押通された給水体2と、b. 底板と前記底板の中央部に立設された周囲に1乃至複数の空気流通部を有する空気流通筒状壁とを備えた鉢底敷き板7と、c. 前記鉢底敷き板の前記空気流通筒状壁内に遮断された管状部3と、d. 前記給水体を前記管状部に固定する固定材4と、e. 前記管状部に遮断自在に固定され前記鉢底敷き板の前記空気流通筒状壁の内径よりも大きい径で形成された前記空気流通筒状壁の上端の開口部に当接される土留部6と、を備えた構成を有している。



(2)

実登3026081

1

## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 a. 管状部に接通された給水体と、b. 底板と前記底板の中央部に立設された周囲に1乃至複数の空気流通部を有する空気流通用筒状壁とを備えた鉢底敷き板と、c. 前記鉢底敷き板の前記空気流通用筒状壁内に接続された管状部と、d. 前記給水体を前記管状部に固定する固定材と、e. 前記管状部に摺動自在に固定され前記鉢底敷き板の前記空気流通用筒状壁の内径よりも大きい径で形成された前記空気流通用筒状壁の上端の開口部に当接される土嚢部と、を備えたことを特徴とする鉢植用給水器。

【請求項2】 a. 管状部に接通された給水体と、b. 底板と前記底板の中央部に立設された周囲に1以上の空気流通部を有し、上壁部に同軸状に開孔され前記管状部を摺動自在に固定する摺動部を有する空気流通用筒状壁とを備えた鉢底敷き板と、c. 前記摺動部に摺動自在に固定された管状部と、d. 前記給水体を前記管状部に固定する固定材と、を備えたことを特徴とする鉢植用給水器。

【請求項3】 前記底板が、周縁部に孔状に形成された1以上の排水通気孔を備えていることを特徴とする請求項1又は2に記載の鉢植用給水器。

【請求項4】 前記空気流通部が、孔状又はスリット状に形成されていることを特徴とする請求項1乃至3の内いずれか1に記載の鉢植用給水器。

【請求項5】 前記給水体が、前記固定材で固定される固定部の上下に固定摺動部を備えていることを特徴とする請求項1乃至4の内いずれか1に記載の鉢植用給水器。

【請求項6】 請求項1乃至5の内いずれか1に記載の鉢植用給水器と、前記鉢植用給水器を内底部に装着した植木鉢と、前記植木鉢を設置するとともに所定部に前記鉢植用給水器の管状部を接通する接通孔を備えた脚付又は脚なしの支持台と、前記支持台の下部に配置され前記管状部に接通された給水体に水を給水する給水容器と、を備えたことを特徴とする鉢賞用植木鉢。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の第1実施形態における鉢植用給水器の全体斜視図

\* 【図2】 本考案の第1実施形態における鉢植用給水器の断面正面図

【図3】 (a) 第1実施形態における鉢植用給水器の鉢底敷き板の断面正面図

(b) 第1実施形態における鉢植用給水器の鉢底敷き板の平面図

【図4】 第1実施形態の鉢植用給水器を用いた鉢賞溶液植木鉢の要部断面正面図

【図5】 本考案の第2実施形態における鉢植用給水器の全体斜視図

【図6】 第2実施形態における鉢植用給水器の鉢底敷き板の断面正面図

## 【符号の説明】

1 第1実施形態における鉢植用給水器

2 給水体

3 管状部

4 固定材

4a 固定部

5 固定摺動部

6 土嚢部

6a 摺動部

7 鉢底敷き板

8 底板

9 排水通気孔

10 空気流通用筒状壁

11 空気流通部

20 植木鉢

21 植物根

22 土塊

23 鉢穴

24 支持台

25 接通孔

26 給水容器

27 水

30 第2実施形態における鉢植用給水器

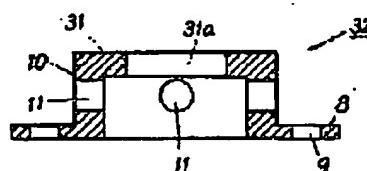
31 上壁部

31a 摺動部

32 鉢底敷き板

\*

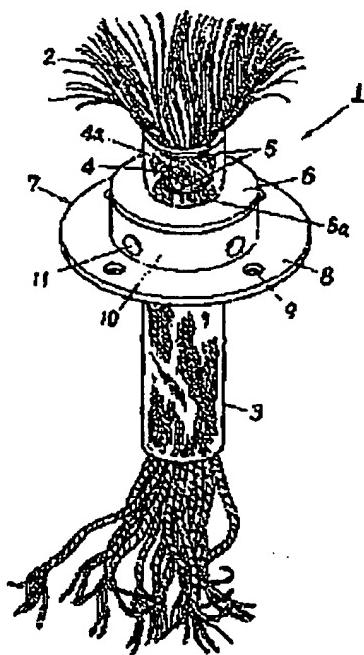
[図6]



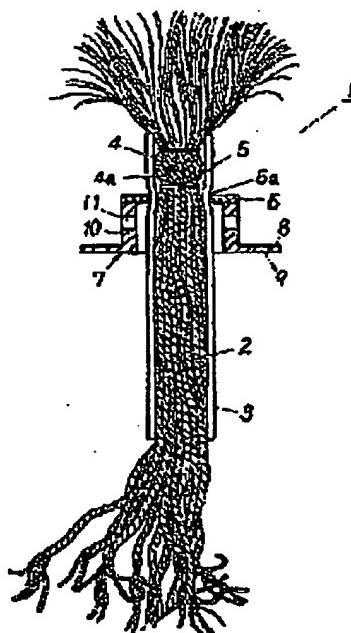
(3)

実登3026081

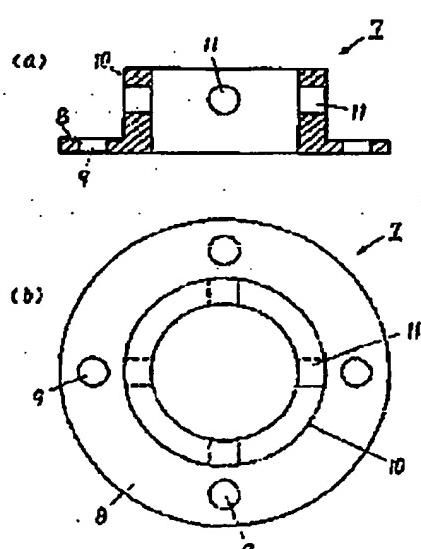
[図1]



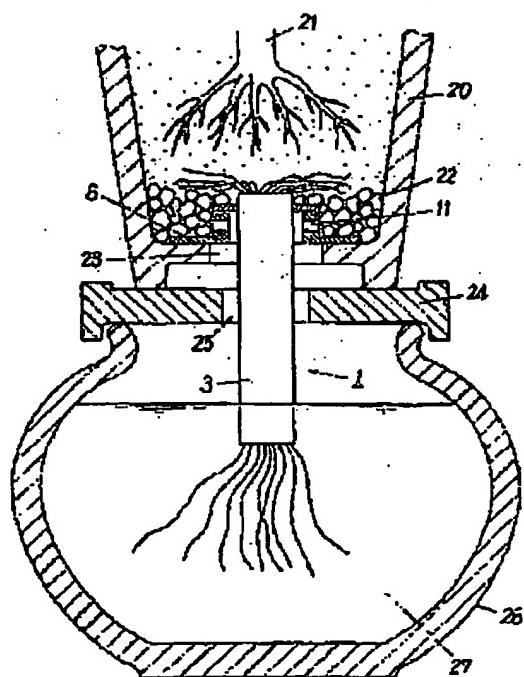
[図2]



[図3]



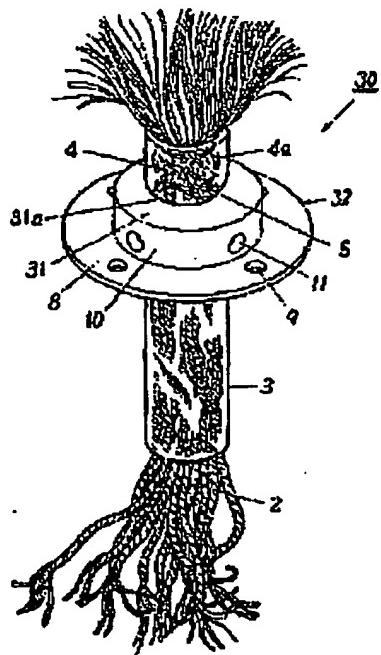
[図4]



(4)

実登3026081

[図5]



フロントページの続き

(51)Int.Cl.  
A01G 27/00

識別記号

片内整恒番号

F 1

技術表示箇所

(5)

実登3026081

**【考案の詳細な説明】****【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は、各種の鉢やポット類に植えられた植物の根へ水分を自動的に補給できる鉢植用給水器及びそれを用いた鑑賞用植木鉢に関し、特に、鉢底に配置された給水容器から給水体の毛細管現象により適量の水分を自動的に植木鉢の植物に供給できると共に土壤空気の置換を容易にし植物を常に活性化できる鉢植用給水器及び高尚かつ豪華なインテリア特性に優れた商品価値の高い鑑賞用植木鉢に関するものである。

**【0002】****【従来の技術】**

近年、生活に潤いを持たせるために花や木を鉢植した植木鉢が室内や庭に飾られ人々を楽しませている。しかし旅行や出張等で家を空けた際は給水が億ならずその間に植物が枯死してしまうという問題点がある。そこでこのような問題点を解決するために鉢植に水分を自動的に補給できる鉢植用給水器が種々開発されている。

例えば、実開昭57-177449号公報（以下、イ号公報という。）には、管に給水芯を持着し給水芯の下部を水槽の水に浸すことにより水が給水芯を浸透して下部から上部に供給される鉢植用給水器が開示されている。この鉢植用給水器には排水通気孔が穿孔された鉢穴蓋が固定され管を支持している。

また、実開昭61-20138号公報（以下、ロ号公報という。）には、植木鉢置皿の下部に水槽を付け植木が水分を吸収する量の水を水上芯にて補給する鉢植用給水器が開示されている。

更に、底板に穿孔された空気流通孔部を有する植木鉢用給水器も種々開発されている。

例えば、実開昭47-12147号公報（以下、ハ号公報という。）には、植木鉢本体内側下部に複数個の孔と吸水芯とを有する仕切板を設けて上方部を植樹部、下方部を貯水室とした植木鉢が開示されている。

また、実公昭53-32989号公報（以下、ニ号公報という。）には、植木

(5)

実登3026081

鉢本体と水槽部との間に着脱自在に設けられた底板に多数の通気孔が底板から下方に吸水芯を挿通するとともに上端部を植木鉢本体の一側面に取付け、下端を水槽の上部に取り付けた取手兼用給水管を設け水槽上部を外気と連通された植木鉢が開示されている。

さらに、底板の略中央部の開口縁部から立設された壁部を備えた植木鉢用給水器も各種開発されている。

例えば、特開昭57-18922号公報（ホ号公報という。）には、台上に突出し、かつ台の下方に垂下する水吸上材を備え、しかもこの水吸上材が垂下するに足る高さを有すると共に、台上には、内底面と内周面とにわたって給水シートが張設されている鉢本体が着脱自在とされ、しかも前記水吸上材の台の突出は鉢本体が着装された時に、鉢本体内の給水シートに接触するに充分なだけ台上に水吸上材が突出して形成された鉢置台が開示されている。

また、実公昭52-40130号公報（ヘ号公報という。）には、周縁部に水受溝、中央部に鉢の載置凹部を形成し、その水受溝に水差孔を設ける共に載置凹部中央に鉢底の水排孔に挿入する円筒状の挿入突起を突設して給水芯を取り付けた鉢栽せ皿を、水受器に着脱自在に被せて構成した植木鉢の載置台が開示されている。

### 【0003】

#### 【考案が解決しようとする課題】

しかしながら上記従来の構成では、次のような種々の問題点があった。

(1) イ号、ハ号、ニ号の各公報においては鉢中の根への空気の流通は底面に形成された排水孔からなされるが、底面に形成されているので土圧を受け易く土砂により目詰まりが生じ空気の出入りが十分に出来ず植物根が呼吸をすることが困難で根ぐされを起こしやすいという問題点を有していた。また、吸い上げ紐が合成樹脂製管状物に押着されているだけなので使用初期に吸い上げ紐がずり下がり耐久性に劣るという問題点を有していた。

(2) ヘ号公報においては、植木鉢内部と外部との開口部が挿入突起の先端部にしかないもので、上記(1)に記載したように開口部に位置する土砂が土圧を受け易く空気の十分な通気路とはなり難く土壤空気の置換が容易でないという問題点

(2)

実登3026081

を有していた。

(3) ホ号公報においては水吸上材からの水分の蒸発を防ぐため台と植木鉢の底面が密着するので、植木鉢内部の空気の置換が困難で根腐れを起こし易いという問題点を有していた。

(4) イ号公報においては給水芯を内蔵した管が鉢丸蓋に固定されているので、他の植木鉢に植え替える際植木鉢の深さや大きさに合わせて植木鉢に挿入する管の高さを調整することができないので、鉢替えの際に管を抜かなければならず根を傷めるという問題点を有していた。

(5) イ号公報やロ号公報においては給水芯の先端が2～3個に大きく分岐されるだけなので根が十分に給水芯にからみ付くことがなく給水が効率良く行えないという問題点を有していた。また、液肥等を直接根に供給する効率に劣るという問題点を有していた。また、根全体に均一に給水することが困難で給水斑が生じるという問題点を有していた。

#### 【0004】

本考案は上記従来の問題点を解決するもので、土壤空気の置換が容易で根の呼吸が十分にでき根腐れが生ずるのを防止できるとともに給水及び液肥の供給が根に確実に行われ、また給水体が管状物からずれ落ちることがなく確実に保持でき耐久性に優れ、かつ、鉢の植え替えが容易な鉢専用給水器を提供すること、及び、屋内で植木鉢や盆栽、箱庭の植物に自動給水でき維持管理が容易でインテリアイ性に優れた鑑賞用植木鉢を提供することを目的とする。

#### 【0005】

##### 【課題を解決するための手段】

この目的を達成するために本考案は以下の構成を有している。

請求項1に記載の鉢植用給水器は、a. 管状部に挿通された給水体と、b. 底板と前記底板の中央部に立設された周囲に1乃至複数の空気流通部を有する空気流通用筒状壁とを備えた鉢底敷き板と、c. 前記鉢底敷き板の前記空気流通用筒状壁内に嵌挿された管状部と、d. 前記給水体を前記管状部に固定する固定材と、e. 前記管状部に摺動自在に固定され前記鉢底敷き板の前記空気流通用筒状壁の内径よりも大きい径で形成された前記空気流通用筒状壁の上端の開口部に当接

(8)

実登3026081

される土留部と、を備えた構成を有している。

請求項 2 に記載の鉢植用給水器は、a. 管状部に挿通された給水体と、b. 底板と前記底板の中央部に立設され周囲に 1 以上の空気流通部を有し、上壁部に同軸状に開孔され前記管状部を摺動自在に固定する摺動部を有する空気流通用筒状壁とを備えた鉢底敷き板と、c. 前記摺動部に摺動自在に固定された管状部と、d. 前記給水体を前記管状部に固定する固定材と、を備えた構成を有している。

請求項 3 に記載の鉢植用給水器は、請求項 1 又は 2 において、前記底板が、周縁部に孔状に形成された 1 以上の排水通気孔を備えている構成を有している。

請求項 4 に記載の鉢植用給水器は、請求項 1 乃至 3 の内いずれか 1 において、前記空気流通部が、孔状又はスリット状に形成されている構成を有している。

請求項 5 に記載の鉢植用給水器は、請求項 1 乃至 4 の内いずれか 1 において、前記給水体が、前記固定材で固定される固定部の上下に固定補助部を備えている構成を有している。

請求項 6 に記載の鑑賞用植木鉢は、請求項 1 乃至 5 の内いずれか 1 に記載の鉢植用給水器と、前記鉢植用給水器を内底部に接着した植木鉢と、前記植木鉢を載置するとともに所定部に前記鉢植用給水器の管状部を挿通する挿通孔を備えた脚付又は脚無しの支持台と、前記支持台の下面に配置され前記管状部に挿通された給水体に水を給水する給水容器と、を備えた構成を有している。

#### 【0006】

ここで、底板の形状は円形状、三角形状、四角形状、多角形状等が用いられる。底板の中央部には管状部よりやや大きい孔部が形成されている。管状部を挿入し易くするためである。底板と空気流通用筒状壁とは合成樹脂を用い射出成形等で一体に成形してもよいし、又は各々別個に形成し耐水性のフェノール樹脂系やエポキシ樹脂系等の接着剤等で各々を接合して形成してもよい。

空気流通部は空気流通用筒状壁に等間隔で穿孔されるのが好ましい。空気流通部が孔状に形成される場合はその孔径は 1 ~ 15 mm が好適に用いられる。孔径が 1 mm 未満になるにつれ空気流通部が土砂により目詰まりを起こし空気の循環が阻止される傾向となり好ましくない。孔径が 15 mm を越えるにつれ土砂が流出する可能性があり好ましくない。好適には鉢の大小にもよるが 2 mm ~ 8 mm

(9)

実登3026081

のものが用いられる。空気流通部をスリット状に形成する場合はスリットの幅を1~5mmにするのが好ましい。空気流通用筒状壁を格子状に形成し空気流通部を空気流通用筒状壁の全面に設けるのも好ましい。その際の格子の間隔は1.5~5mm程度にするのが好ましい。

給水体は導水性纖維を束ねたものや紐状に結ったものが用いられる。給水体の材質は綿等が用いられる。鉢底内に存置される端部はほぐし易いもの又はほぐし易く加工したものが好ましい。鉢底の土の上に放射状にほぐした部分を広げ給水を鉢の断面全面に均一に行うためである。また、有機水銀剤、フェノール類及びその塩化物、ナフテン酸等の有機酸の金属塩、第4アンモニウム化合物等を給水体に塗布し抗微生物処理を施しても良い。

管状部の材質はリニアローテンシティポリエチレン等のポリオレフィンや塩化ビニール樹脂等の軟質合成樹脂やシリコーン樹脂やポリウレタン等の合成ゴム或いはエラストマー等が用いられる。給水容器の大小深浅に併せて折り曲げたりして容易に利用できるとともに、土留部や上壁部の摺動部を摺動自在でかつその隙間を密閉することができるからである。

土留部や上壁部の摺動部の径は管状部の径より少し小さく形成するのが好ましい。土留部や摺動部で管状部を摺動自在に固定できるためである。

#### 【0007】

植木鉢としては、合成樹脂製等ポットの他素焼き鉢、堅焼き、釉鉢、盆栽等に使用される平鉢、箱庭容器が好適に用いられる。鑑賞用に用いる場合は、萩焼や偏前焼、伊万里焼、清水焼、九谷焼等の高尚優雅な植木鉢を用いると植木鉢の君子蘭等の花や松等の植木と相まってインテリア効果を高めることができる。

支持台としては、木型、陶磁器製、合成樹脂製のものが使用される。植木鉢支持用の支持台は脚部を設けてもよいし、又は脚部を形成しないで壺等の給水容器の開口部に直接設置できるような凹部や節壁を形成してもよい。盆栽や箱庭用には、短足の脚部で脚部間に節壁を有するものを用いると盆栽等とバランスがとれて高尚にことができる。支持台として紫檀や黒檀等の木彫工芸の花台を用いると芸術性を高め、花と花器、花台が一体となり優れたインテリアとして用いることができる。支持台の排通孔は管状部の径の1.5~3倍程度に形成される。

(10)

実用3026081

給水容器としては、ポット等の通常の容器の他、インテリア用として用いる場合は植木鉢に合わせて萩焼や宿前焼、伊万里焼、清水焼、九谷焼等の壺や水盤を用いると植木鉢と調和してインテリア効果を更に高めることができる。

### [0008]

この構成によって、空気流通部が空気流通用筒状壁の側壁に穿孔されているので土砂等による目詰まりを防止でき水や空気の流通を常に保つことができる。根腐れ等の根の病気の発生を防ぐことができる。給水体のはぐした端部を鉢底に敷設された鉢土の上に同心円状に拡開できるので給水圧なく均一に植物根に給水できる。土留部や鉢底敷き板は指動自在で脱着可能なので鉢替えの際、鉢の深さや大きさに合わせて土留部や鉢底敷き板の保止位置を調整したり植木鉢の排水孔の大きさに合わせ他の鉢底敷き板と差し替えることもできる。鉢底敷き板が取り替え自在なので、鉢替えのときは、給水体と管状物を鉢植えの植物と一緒に他の鉢に移し替え、鉢に合う鉢底敷き板に代えるだけで移植でき根を切断して傷めることなく根腐れを防止できる。鉢植えの植物とともに移植できるので根の毛根や給水通路である土の毛細管を切ることがなく鉢替えの際給水能を損なうことがない。また、土留部や上壁部により土砂等の空気流通用筒状壁の内部への侵入を防止できる。土留部や上壁部の指動部は管状部を所定位置に指動自在に固定することができるので植物の成長に合わせて植え替え時に土留部や鉢植用給水器を移動させ給水体の高さを調整できる。更に、底板に排水通気孔が設けられているので排水を確実に行うことができる。固定材が給水体と管状部を強固に固定するので給水体が管状部からずれ落ちるのを防止できる。結束等からなる固定補助部が給水体全体を緊結しているので使用時や移植時等における給水体の抜けを防止できる。

### [0009]

#### 【考案の実施の形態】

以下に本考案の実施形態について、図面を参照しながら説明する。

#### (実施形態1)

図1は本考案の第1実施形態における鉢植用給水器の全体斜視図であり、図2は本考案の第1実施形態における鉢植用給水器の断面正面図であり、図3（a）は

(11)

実登3026081

第1実施形態における鉢植用給水器の鉢底敷き板の断面正面図であり、図3（b）は第1実施形態における鉢植用給水器の鉢底敷き板の平面図である。

図1乃至図3において、1は第1実施形態における鉢植用給水器、2は上下端部を解した綿紐等の導水性纖維を組紐に形成し水に浸した下端部から表面張力で上端部に水を吸い上げる給水体、3は給水体2を管内に押着する柔軟で耐久性に富んだ塩化ビニールやリニアローテンシティポリエチレン等のポリオレフィンの軟質合成樹脂からなる管状部、4は管状部3の上部の周壁間に渡って押着され給水体2の固定部4aを貫通し給水体2を管状部3に固定するピン等からなる固定材、5は固定部4aの上下に給水体2を紐やゴムバンド等で緊結した結束部からなり給水体2の引き抜けを防止する固定補助部、6はドーナツ板状に形成され中央孔で管状部3に上下動自在に摺動部6aで保持され下面で後述する空気流通用筒状壁の上面に当接され土砂の空気流通用筒状壁内からの流出を防止する土留部、7は管状部3を鉢の底面から垂直に支持する鉢底敷き板、8は鉢底敷き板7のドーナツ状に形成された底板、9は底板8の周縁部に所定の間隔で穿孔され鉢中の余分の水を排水するとともに通気する排水通気孔、10は底板8の中央孔の内縁部から立設され底板8と同一の材料で一体に成形された空気流通用筒状壁、11は空気流通用筒状壁10の側壁に所定の間隔で貫通して穿孔され植木鉢内の土砂中への空気の供給・排気を行い根の呼吸を補助するとともに土壤空気を置換し根腐れ等を防止する空気流通部である。

以上のように構成された鉢植用給水器を用いた鑑賞用植木鉢について、以下に図面を用いて説明する。

図4は第1実施形態の鉢植用給水器を用いた鑑賞用植木鉢の要部断面正面図である。

図4において、1は第1実施形態における鉢植用給水器、20は植物を植栽した素焼きや萩焼等の陶磁器等で形成された植木鉢、21は鉢植の植物根、22は赤玉土等からなる土塊、23は植木鉢20の底面の鉢植用給水器を挿入する鉢穴、24は外周面等に装飾を施した合成樹脂盤、木製からなる植木鉢20を載置する支持台、25は支持台24に穿孔され鉢植用給水器1の管状部3を挿入する押込孔、26は萩焼の壺等からなる給水容器、27は給水用の水である。

(12)

実登3026081

まず、給水体2の先端部が植木鉢20の内の最適な位置に配置できるよう土留部6の高さを調節し、土留部6を空気流通用筒状壁10の上面に当接させ鉢底敷き板7を植木鉢20の底面に設置し管状部3を鉢穴23に挿入する。植木鉢20内の底部に土塊22を敷く。次いで、給水体2の上端部をほぐして土塊22の上に同心円状に均一に敷設する。土塊22をその上に被せ鉢組えの植木等の花や木を植木鉢20に植える。給水容器26内に水27を貯水し支持台24の押通孔25の直下に設置する。植木鉢20の給水体2を支持台24の押通孔25に挿入しながら給水体2を水槽26内の水27につけ植木鉢20を支持台24上に載置する。給水容器26の水27は給水体2の毛細管現象により吸い上げられ、植木鉢20の底部全面に均等に水を給水する。植木鉢20内には空気流通部11を通して空気が入りし土壤空気と容易に置換するので根の呼吸を助ける。

#### [0010]

以上のように本実施形態によれば、管状部に摺動自在に上下動する土留部と、底板の内縁部に立設された空気流通用筒状壁と、空気流通用筒状壁の側面に穿孔された空気流通孔部と、を設けたので、空気流通部を通して空気が植木鉢内の土塊中の土壤空気と容易に置換するので植物の根の呼吸が十分に行われ植物を健全に育成することができる。土留部が管状部の任意の位置に摺動自在に固定されるので給水体の位置を自在に設定でき植木の成長に合わせて種々の大きさや深さの植木鉢に移し替えることができる。また、鉢の大小に合わせて、鉢植用給水器を取り替えなくても最適位置で管状部を土留部に固定させることにより鉢の大小や浅深に係わりなく使用することができる。また、給水体が綿紐で形成されているので植物の根に馴染み易く、給水や液肥の供給がスムーズに効率良く行われ植物を健全に育成することができる。給水容器として袁焼等の陶器を用いているので給水体の内部に水苔や緑藻が生成しないので、常に一定量の水を植物に給水できる。尚、植木鉢にラン等の高級な花を植え、支持台を植木鉢と合わせて黒植等の花台を使用することにより、高級なインテリアとして使用することもできる。

#### [0011]

##### (実施形態2)

図5は本考案の第2実施形態における鉢植用給水器の全体斜視図であり、図6

(13)

実登3026081

は第2実施形態における鉢植用給水器の鉢底敷き板の断面正面図である。

図5及び図6において、2は給水体、3は管状部、4は固定材、4aは固定部、5は固定補助部、8は底板、9は排水通気孔、10は空気流通用筒状壁、11は空気流通孔部であり、これらは実施形態1と同様なものなので同一の符号を付し説明を省略する。

30は第2実施形態における鉢植用給水器、31は空気流通用筒状壁10の上端から内側に一体に屈曲形成され内緑部の摺動部31aが管状部3を摺動自在に保持する上壁部、32は空気流通用筒状壁10の上部に一体に形成された上壁部31を傾えた鉢底敷き板である。

以上のように本実施形態によれば、空気流通用筒状壁の上端に形成され管状部を摺動自在に保持する上壁部を設けたので、第1実施形態で挙げた効果の他に空気流通用筒状壁の上部から鉢底敷き板内部への土砂の侵入を確実に防止でき空気流通部を通しての空気の供給・排気を妨害することなく根の呼吸が十分に行え植物を健全に育成できる。また、土留用の上壁と空気流通用筒状壁が一体に形成されているので生産性に優れ低原価で量産できる。

### 【0012】

#### 【考案の効果】

以上のように本考案の鉢植用給水器は、管状部に押通された給水体と、底板と底板の中央部に立設された周囲に1乃至複数の空気流通部を有する空気流通用筒状壁とを傾えた鉢底敷き板と、鉢底敷き板の空気流通用筒状壁内に遮擋された管状部と、給水体を管状部に固定する固定材と、管状部に摺動自在に固定され鉢底敷き板の空気流通用筒状壁の内径よりも大きい径で形成された空気流通用筒状壁の開口部に当接される土留部と、を備えているので、以下のような優れた効果を実現できる。

(1) 空気流通用筒状壁の側壁に穿孔された空気流通部を設けたので土砂等が目詰まりを起こすことなく植木鉢内での空気の流通を十分に行うことができる。従って、土砂中を空気が十分に浸透でき植物の根の呼吸が十分に行われ植物の育成を促進できる。

(2) 鉢底敷き板が管状部と摺動自在で脱着可能なので、鉢替えの際は植木鉢の

(14)

実登3026081

大きさや深さに合わせて自由に位置決めができるまた大きさの異なったものや形状の違うものに差し換えることもできる。また植物根と共に給水体及び管状部と共に移設できるので植物根や毛根を切ったり痛めることなく鉢替えを容易に行うことができる。

(3) 給水体の端部を解し細かく分散することができるので、植木鉢の土中に拡開して設置でき給水斑なく均一に給水を行うことができる。また、植物の根となじみ一体となり易いので液肥等を給水容器に添加した場合効率よく給肥を行うことができる。

(4) 鉢底敷き板により鉢植用給水器を植木鉢に固定するので任意の大きさの鉢穴に使用でき鉢底敷き板を敷くことにより既成のどのような植木鉢にも適用できる。

(5) 土留部が空気流通用管状壁の上部に当接されるので鉢底敷き板内に土砂等が侵入することがなく空気流通部からの空気の流通を妨げず植物の健全な育成が図られる。また、鉢底敷きの上部と管状体を指動部を介して密閉したので鉢底敷き板の内部に土砂等が侵入することがなく空気の供給・排気が空気流通部を介して十分に行われる。

(6) 鉢植用給水器が外部から目視されないので美観に秀で室内等でインテリアの一部として利用でき室内の居住性が向上する。

(7) 給水体と管状部が固定材により固定部で固定されているので給水体がずり落ちることがなく据付が簡便で耐久性が高い。また、給水体が結束部により緊結されているので給水体の抜けが少なく耐久性に富む。

(8) 構造が簡便なので製造が容易で多量の生産に適し生産性や量産性に優れる。

上記優れた効果を有する鉢植用給水器と、鉢植用給水器を底部に装着した植木鉢と、植木鉢を設置するとともに所定部に鉢植用給水器の管状部を押通する押通孔を備えた脚付き又は脚無しの支持台と、支持台の下面に配置され前記管状部に押通された給水体に水を給水する給水容器と、を備えているので、以下の優れた効果を実現できる。

(1) 支持台や薪焼等の窓からなる給水容器が植木鉢と調和して高尚で豪華ない

(15)

実型3026081

ンテリアとして用いることができる。

(2) 植木に自動給水されるので、維持管理が容易でかつ長時間に亘って鑑賞することができ、従来の生花のように水を替えたり等の煩わしさがなく、常時植木や鉢、壺等を鑑賞することができる。

(3) 植木と植木鉢、給水容器、支持台をそれぞれ藝術性の高い萩焼や備前焼、又紫檀や黒檀等の工芸品を用いて一体化すれば植木の動の美と壺や黒檀等の工芸品の静の美が調和し従来なかったインテリアとして利用することができる。